

## 第26回 コムズフェスティバル 市民企画事業 実施報告書

グループ名	松山市針灸師協会
開催日時	2025年2月16日（日）午前10時～11時30分
テーマ	東洋医学の知恵を活かした健康長寿の町づくり ～鍼灸・漢方薬を活用した認知症予防への挑戦
形式	講師による講演（パネルディスカッションは時間の都合により割愛。）
講師等	川並汪一（日本医科大学名誉教授）
参加人数	女性 35名 / 男性 24名 【合計 59名】

### 〈内容〉 川並汪一医師の講演内容

認知症は誰にでも起こり得る病気である。アルツハイマー型認知症の原因とされるアミロイドβの蓄積は40歳代から始まっている。顔にシミが出始める頃、脳のシミ、アミロイドβの蓄積も始まる。そして80歳代になると、3人に1人が認知症を発症する。

鍼灸治療は認知症の予防に有効であり、認知症を発病した方にも効果がある。中でも三焦鍼法の効果は優れている。臨床研究によれば、週1回の施術を3か月間続けることで、長年にわたり困っていた周辺症状の緩和、認知度スケール（MMSE）の急激な低下の抑制、感情面の改善、日常生活動作（ADL）と生活の質（QOL）の向上が認められている。三焦鍼法は精神に好影響を及ぼすことがわかっており、その脳内機序の解明が進められている。

三焦鍼法の費用対効果を先端医学によるレカネマブやアリセプトなどの治療と比較すると、鍼灸施術は医療費の面で非常に安価であり、副作用もない。さらに、先端薬は発病してからの服薬となるが、鍼灸施術は予防的に用いることが可能である（未病治）。

松山市には、はり・きゅう助成制度がありこれを活用すれば、鍼灸施術の費用対効果はさらに高まる。この制度は3年後廃止になると聞いたが、このはり・きゅう助成事業を何とかして延長し、松山市を「鍼灸による認知症予防特別地区」にしてはいかがだろうか。

### 〈参加者の感想〉

- ・患者家族の立場として、より専門的な情報も欲しい。
- ・認知症患者の家族に向けた話も聞いてみたい。
- ・認知症の診断を受け、標準治療と共に鍼灸治療を併用中。希望が持てる内容だった。
- ・同じような機会があれば、また参加したい。

### 〈まとめ〉

鍼灸師の役割は、市民の健康寿命の延伸に寄与することである。認知症は長寿社会の脅威であり、患者本人や家族を苦しめる。その予防と治療に鍼灸が有効であることを広く知らしめるため、この講演会を企画した。参加者の感想にあるように認知症に関する情報や対処法を必要としている市民は多い。鍼灸施術は先端医学と併用することも単独で用いることもでき、副作用がない。奇しくも60年余り続いた松山市の後期高齢者はり・きゅう助成制度の3年後の廃止が決まったタイミングでの開催となった。高齢者は社会の功労者である。本会は、彼らの労を讃え、今後も高齢者が気軽に鍼灸施術を受けられるよう松山市に対してはり・きゅう施術の助成を働きかけていく所存である。（文責：松山市針灸師協会 玉岡）

※この報告書は、当財団のホームページに掲載させていただきます